

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	690400023
法人名	新日本エンジニアリング株式会社
事業所名	グループホーム あすなろ窪田
訪問調査日	平成 19 年 10 月 1 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	690400023		
法人名	新日本エンジニアリング株式会社		
事業所名	グループホーム あすなろ窪田		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市窪田町窪田1421番地1 (電 話) 0238-37-2070		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年10月1日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6 人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	個別
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低 67 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	米沢市立病院 あさひ歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

スロープを用いることにより暮らしに障害となる段差を解消し、手すりを設置することにより自立した生活を安全に送れる工夫が医院を改築して建てたホームの中に施されており、また、一人ひとりの利用者の状態に合わせて、併設するデイサービス事業所の浴槽を利用して入浴することもできるホームです。
週1回のミュージック・ケア(音楽療法)、消化を助ける唾液分泌促進と嚥下(飲み込み)障害の予防にも有効とされる口腔体操を取り入れ、また、ペットと一緒に生活したいという思い、お金を自分で持っていたいという思いなど、一人ひとりの様々な思いを職員全員で受けとめながら、利用者の個性や生活歴に配慮した自由な暮らしを支えるサービスが提供されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当についての組織的な取り組みとして、救急法を受講した職員から伝達講習の形で手当等の対応を職員が学んでいるが、すべての職員が実際の緊急時の場面でより確実な手当を行うことができるよう、引き続き講習会等への参加が期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に職員全員で目を通し、月例ミーティングで話し合いながら、管理者、計画作成担当者が中心になりまとめ、前回の要改善点を中心に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されており、利用者の現状報告、地域といかに交流を図るか、中越地震を教訓にした防災訓練等についての話し合いが行われている。また、家族や民生委員から出された意見や情報を取り入れ、家庭菜園作り、地域の公民館行事への参加など、利用者の生活やサービスの向上にもつなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に声がけを行い、職員も一緒に利用者と家族の話に加わりながら意見を引き出すように努めている。また、運営推進会議の中で家族から寄せられた意見等をホームの運営にも反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への入会、地区公民館で行われた医師講演会への利用者との参加、利用者の希望を受けた運動会観戦など、民生委員から提供された情報も上手に活用しながら、地域との交流を図る取り組みを進めてきている。また、利用者にも評判の良い中学生の職場体験の受け入れが行われ、老人会や町内会との積極的な交流も民生委員の協力を得ながら計画されている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活を大切にします」を理念とし、職員全員が地域密着型サービスの意義を理解した利用者本位の支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行われる月例ミーティングやサービス担当者会議、毎朝の申し送り時に確認を繰り返しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への入会、地区公民館で行われた医師講演会への利用者との参加、利用者の希望を受けた運動会観戦など、民生委員から提供された情報も上手に活用しながら、地域との交流を図る取り組みを進めてきている。また、利用者にも評判の良い中学生の職場体験の受け入れが行われ、老人会や町内会との積極的な交流も民生委員の協力を得ながら計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で目を通し、月例ミーティングで話し合いながら、管理者、計画作成担当者が中心になりまとめ、前回の要改善点を中心に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、利用者の現状報告、地域とのかい交流を図るか、中越地震を教訓にした防災訓練等についての話し合いが行われている。また、家族や民生委員から出された意見や情報を取り入れ、家庭菜園作り、地域の公民館行事への参加など、利用者の生活やサービスの向上にもつなげている。		

山形県 グループホームあすなろ窪田

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れたり、市職員から地域との連携について助言をもらうなどの連携がとられていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や余暇活動、通院結果を記載した担当職員からの毎月の便り、職員異動時は顔写真の入った「あすなろ便り」が送付されている。また、金銭については立替払いを行い、毎月便りと共にレシートを送付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声がけを行い、職員も一緒に利用者と家族の話に加わりながら意見を引き出すように努めている。また、運営推進会議の中で家族から寄せられた意見等をホームの運営にも反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動により交代した場合は、異動先にも状況をみながら訪ねて行ったり、行事の際に一緒に時間を作るようにしている。また、職員退職後は、他の職員がこまめに利用者へ声がけを行い話し相手になるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設しているデイサービス事業所と合同で年間研修計画を作成し、福祉専門講座や認知症に関する講習会、リハビリテーション研修に参加しており、月例ミーティングで報告し周知されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	置賜地区のグループホームを対象としたブロック会に2ヶ月に1回参加し、情報交換や勉強会を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつの時間に利用者が中心となって手作りのおやつを作ったり、調理師の経験がある利用者から味付けや調理法を教わるなど、利用者と職員が共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ペットと共に生活したい場合は、他の利用者の状況も考慮しながら、また、毎週美容院に出かけたいと希望する方には、美容院やタクシー会社と連絡を取って出かけるやすいよう配慮するなど、職員全員で話し合いを行いながら、利用者一人ひとりの意向に沿った生活ができるように援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、一人ひとりの利用者について職員間で話し合いが行われており、気づきや意見が出されている。また、自分でお金を持っていたいと希望する利用者には、家族や職員での話し合を持ち、見守りを重視した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護期間に応じた見直しを行い、状態に変化が生じた場合は家族や関係者と話し合い、介護計画を作成する体制ができている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホーム利用前からのかかりつけ医に引続き受診できて おり、利用者の状態を家族にも知ってもらう点から、受 診時の送迎はできるだけ家族にも協力してもらっている。 また、通院時には利用者の情報提供をかかりつけ 医にも行い、指示や助言をもらって情報共有を図って いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	開設後間もないため、重度化や終末期に向けた対応 が必要な利用者はいないが、ホームでの生活継続が 可能な場合には、医療機関、家族、職員間で話し合い をもち、その方針を共有しながら対応する体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	プライバシーの配慮に欠けた事例の振り返りを職員自ら行う こと、部屋の前や廊下に掲示する利用者の写真について事 前に利用者から承諾を得ることなど、利用者のプライバシー 確保に前向きに取り組んでおり、穏やかで和やかな雰囲気 の中で一人ひとりの誇りを損ねない言葉かけや対応が行われて いる。また、介護記録は鍵のかかる場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の予定表が作られていたが、併設するデイサービス利用 者のところにお茶飲みに出かける人や、自分の部屋の前 の草むしりをする人など、思い思いに時間を過ごすことができて いる。また、天気の良いのでドライブに行きたい、花火が見た い等の希望にも応えており、予定にとらわれることなく一人ひ とりのペースや思いに沿った支援がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の資格を持っている職員が1週間分の献立を立てているが、利用者から事前に出された要望や一緒に買い物に出かけた際に希望が出された場合には、変更する対応がなされている。また、食事準備の際の皮むき、食後の食器運びや食器拭きなど、利用者一人ひとりが力を活かせる役割がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日はゆっくり利用者と過ごす時間や外に出かける時間を作るために、入浴は月曜日から土曜日までとしているが、利用者からの希望があれば日曜日でも入浴することができ、拒否の強い利用者には入浴時間や対応する職員を替えて入浴を勧めている。また、車椅子利用者には、併設するデイサービス事業所の浴槽を借りて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の高い利用者も、お粥持参で回転寿司に出かけて楽しんだり、月2～3回の外出やドライブを楽しんだりしている。また、買い物の際の荷物持ち、掃除機やモップかけ、野菜の水かけなど、利用者それぞれに役割が持てるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食料品の買い物、散歩、ペットとの散歩など戸外に出かけられる支援がされており、車椅子利用の方も外に出かけやすいように、玄関の段差にはスロープ設置の配慮がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	帰宅願望の強い利用者を無理に制止せず、付き添いながら納得できるまで散歩するといった、安全に配慮しながら利用者の思いも尊重する支援がなされている。また、玄関に付けた鈴の音で、ホーム内から屋外に出て行ったことを察知できる工夫もなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	デイサービス事業所と合同の、日中を想定した避難訓練を年2回行っており、居室前には顔写真、居室脇には個別・具体的な誘導方法が掲示されているが、地域住民の協力が得られるまでには至っていない。	○	今後の運営推進会議での話し合いやこれから予定している民生委員の集まりの際の願いを通して、地域住民の協力体制がより早い時期に確立される働きかけが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は、個人ごとにチェックしてケース記録に記載されており、寒天やゼリーなど嗜好を考慮したものも提供されていた。また、お粥や副菜を刻み、より食べやすくするなどの工夫もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風通しのよい廊下にソファが準備され、居間にはどんぐりを貼って作った手作りカレンダーが掛けてあり、居心地のよい空間作りがなされていた。また、男女兼用のトイレは、職員の見守りで使用時が重ならないようにするなど、既存の建物の特徴をカバーする配慮もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や箆笥、ポットやテレビなどが持ち込まれ、写真や誕生日のお祝いに贈られた寄せ書き扇子などが壁に飾られ、一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫がされている。		